

第3学年 社会科 学習指導案

天理市立福住小中学校 教諭 大野直彬

1. 単元名 「わたしたちの暮らしとまちではたらく人びと」 ～店ではたらく人びとの仕事～

2. 単元の目標

- ・販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえて、サービスや販売の工夫をして売り上げを高めていることを理解するとともに、見学や調査、資料をもとにグループでの対話を通して、新聞にまとめることができる。 (知識・技能)
- ・消費者の願いや販売方法、他地域や他国との関わりに着目して、販売に携わる人々の工夫をとらえるとともに、そこから見えてくる問題点や今後の課題について、自分たちの考えを新聞を通じて表現することができる。 (思考・判断・表現)
- ・身近な地元のお店や市内のスーパーマーケットで働く人びとの工夫や、販売・消費の流れで生じる課題について、自分事として考え、これまでの消費について振り返りながら、今後自分はどのようにしていくかを意欲的に考えたり新聞にまとめたりすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、はじめに自分たちが住む地域のお店と家の人がよく買い物をするスーパーマーケットなどのお店を比較して、違いや共通する部分を確認することで、なぜスーパーマーケットで買い物をするのか学習課題を設定する。また、買い物調べの結果を共有することで、家の人ができるような買い物をしていくのかの傾向を分析していく。

そして、スーパーマーケットにおいて、お客さんに来てもらうためのサービスや販売者の工夫、商品の取り扱い方などについての学習を通して、自分事として消費について考えることができる教材である。また、見学や調査を通して、様々な立場の人（販売者・消費者など）の思いを知り、実際に感じた良さや問題点・課題などについて考えを深めていくだけでなく、社会・他地域・他国との関わりや環境への影響など視野を広げて考え、グループで意見交流や対話を通して、どうしていくことが大事なのかにも触れて学習を進めていくことができる。

また、消費者の立場で、どのお店でどの商品をどのように選ぶのかについて、自分事として考え、選択し、今後の生活において自分自身の行動についても見つめ直すことができる教材となっている。

(2) 児童観

本学級の児童は、学力の差が大きく学習進度にも差が出てしまう傾向があるため、学び合いを通して友だちと関わり、協力して学習に取り組むようにしている。学習の中では、興味・関心のないことには消極的な姿勢がみられるが、興味や関心に一度火が付くと、発想やイメージを膨らませて、様々な場面や事象、課題に対して仲間と熟考しながら取り組むことができる。さらには、これまでの社会科や福住学の学習（校区探検や生き物調査など）を通して、自分たちの住んでいる福住の良さや素晴らしさを発見し、調

べる活動を重ね、まとめていく中で、社会との関わりや環境とのつながりについても考えることができはじめた。その中で、天理市内と福住との違い（気候や地形、町の雰囲気、店の規模、農業・産業、文化など）にも気づくことができている。仲間と協力し、対話しながら課題を解決していく力や社会や環境との関わりに視野を広げ始めたこの時期に、本単元の店ではたらく人びとの仕事が自分たちの生活にどのように関わり、どのような工夫がなされているのかについて考え深めていける機会になると考えている。

（３）指導観

本単元の指導の導入に当たっては、身近な福住にある商店と天理市内にあるスーパーマーケットの写真（店の大きさ・全体像、陳列の仕方、働いている人など）を提示し、比較を行い共通点や相違点を見つけながら、みんなが普段のお店で買い物をしている疑問について全体で共有する。また、買い物調べの結果から家の人々がどのような買い物をしているのか特徴を読み取る。出てきた意見をもとに、お店ではたらく人びとの仕事はどのようなものがあり、私たち消費者へどのようなサービスや工夫を行っているのかを気づく中で、どのような課題があるのかを考えながら、自分たちが今後そうしていくべきなのかについて、大まかにとらえるようにイメージをもたせたい。

次に、お店のサービスや販売者の工夫について、どのようなものがあるのかをグループで意見交換を行いながら調べ学習を進めていく。また、可能な限り地元のお店や市内のスーパーマーケットに見学に行き、生で売り場の様子を感じられるようにする。調べ学習や見学を通して、産地などを白地図にまとめたり、消費者のニーズに応じて品物の陳列方法や表示の仕方、働く人の服装など調査し、感じ取ったことを出し合い共有していったりする。それに加え、お店同士の比較や販売者のサービスや工夫の中から、どのような課題や問題点が隠れているのかを対話の中で見つけていく。売れ残りの商品は出ないのか、出るとするならばどうしているのか、仕入れ先の選定やこだわりから生じる弊害、清潔感を重視するあまり生じる環境への影響など、ただ買うだけでなく、消費するうえで発生する問題に着目できるように視野を広げて考えさせたい。

そして、消費者の立場で自分たちであればどのように品物を選ぶのか、具体的な問題を提示して、選択させ考えさせる。考え選択する材料として、比較できる品物をいくつか用意し、手に取る中で自分の判断の根拠にできるようにする。

最後には、これまでの自分たちの消費について振り返り、消費者・買い手の立場として、私たちは今後どのように行動していけばよいかを考えていくことで、普段の生活につなげ、社会との関わりや環境への意識の変化や行動につなげていくようにする。

（４）ESDとの関連

○本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性・・・他地域・他国とつながり、様々な産地の物が届いて消費されている一方で、売れ残り商品の処分や処分先の問題、処分にかかるエネルギー消費などの悪循環に陥っている。

有限性・・・大量生産・大量消費・大量処分による社会や環境への悪影響が懸念されるということ。使い捨てが当たり前意識からもったいない意識への回帰が大切であること。

公平性・・・ブランドという付加価値による生産側の工夫や農業の発展の一方で、ブランド化された商品とそうでない商品の価値の差により生じる生産・販売・消費の格差や意識の問題。

○本学習で育てたいESDの資質・能力

・批判的に考える力（クリティカル・シンキング）

オールシーズン食べたいものが食べたいときにいつでも手に入ること、欲しいものが欲しいだけ手に入ること、ブランド物が良い商品であるということなど、当たり前で普段気にもかけない感覚に対して、本当にそうなのか・本当にそれでいいのかという視点を持つ。

・多面的・総合的に考える（システムズ・シンキング）

教科書で取り上げている販売者の立場だけでなく、生産者や消費者の目線に立ち、本当に必要なことなのか、社会や環境への影響はないのかなど、生産と消費について様々な角度から考えを深める。

○本学習で変容を促すESDの価値観

・世代内の公正

自分たちの世代だけでなく生産・消費についての中長期的な問題や課題に向き合い解決していく姿勢が大切である。

・自然環境、生態系の保全を重視する。

限られた資源や環境を大切に守り、過度なサービスや商品の製造、無駄な消費を避けなければならない。

・幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

自分たちの幸せが、次の世代の幸せであるとは限らない。また、物であふれることが幸福ではないこと。

○達成が期待されるSDGs

- 12 賢い生産者・販売者・消費者になる（生産と消費）…生産・販売側の過度な商品の製造やサービスの削減、消費側の手前取りやエコに心がける、食品ロスの削減

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①買い物調べの結果を図にまとめ、家の人々がどのような買い物をしているのか特徴を読み取っている。</p> <p>②スーパーマーケットの売り場を見学して見つけたことや疑問に思ったことを、見学メモに書き、情報を集めている。</p> <p>③スーパーマーケットでの見学や聞き取りから、店ではたらく人の取組や工夫について理解するとともに、その工夫の情報を集めたり疑問をもち整理したり白地図にまとめたりできる。</p>	<p>①スーパーマーケットの絵から店の様子を読み取り、店の工夫を予想したり、疑問を書いたりできる。</p> <p>②たくさんのお客さんが買い物に来る理由とスーパーマーケットで働く人の工夫とを関連付けて考えている。</p> <p>③今まで学習してきたことをもとに、消費者の私たちの願いや、社会や環境とのつながりを大切にする工夫について考えを表現している。</p>	<p>①どの店でどんな品物を買うのか、普段の買い物で感じている疑問について、友だちと話し合いながら考えることができる。</p> <p>②どのような工夫をしているかに対する予想をもとに、何をどのように調べるのかや疑問を具体的に考えている。</p> <p>③賢い消費者とは何かについて、これまで学習したことをもとに友だちと意見を交流し、考えようとしている。</p> <p>④賢い消費者になることが、生産者や販売者へどのような影響を与えるのかについて考えようとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全12時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>○身近な福住にある商店と天理市内にあるスーパーマーケットの写真を比較して、共通点や相違点を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品の数がちがう。 ・商品が分かりやすく表示してある。 <p>○買い物調べの結果から家の人がどのような買い物をしているのか特徴を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大量に購入している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活経験を想像できるように具体的な写真を提示する。 ・結果から店や商品の種類に着目させる。 	<p>△イ① △ウ① （発言・ノート）</p> <p>△ア① （プリント）</p>
2	<p>○調べ学習や見学を行い、お店のサービスや販売者の工夫について、グループで意見交換を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安く商品を提供している。 ・仕入れ先や選定のこだわりは何か。 <p>○お店同士の比較や販売者のサービスや工夫の中から、どのような課題や問題点が隠れているのかを対話の中で見つけていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売れ残りはどうするのか。 ・過剰な包装は必要か。 <p>○消費者の立場で自分たちであればどのように商品を選ぶのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費・賞味期限の選び方 ・地産地消する（輸送コストカット） <p>○賢い消費者になるために社会や環境との関わりを踏まえて、どのようなことに気をつけるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無駄買いしない ・手前取りをする ・食品ロス削減、エコを心がける <p>○私たちが賢い消費者になることで、生産者や販売者へ更にどんな影響を与えるかについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人の動きや服装、商品の様子、通路の様子など絵を見せて具体的に考えさせるとともに、生活経験からも考えるように声掛けをする。 ・販売者のサービスや工夫がお客さんにとってプラスになる反面、批判的な視点をもって問題が隠れていないか具体的な例を挙げて考えさせる。 ・「販売・購入」の視点だけでなく、商品が店に届くまで、また消費されなかった後のことまで考えさせる。 ・批判的な視点から見えてきた課題を解決するためにはどうすればよいかを生活経験と再度結び付け考えさせる。 ・私たちが賢い消費者になることで、生産者や販売者が更なる工夫をして、商品や販売方法、サービスの在り方も社会や環境を考えたものによって変わっていくことに気付かせる。 	<p>△ア② △イ② △ウ② （発言・プリント）</p> <p>△ア③ （発言）</p> <p>△ウ③ （発言・プリント・新聞）</p> <p>△イ③ （発言・プリント・新聞）</p> <p>△ウ④ （発言・プリント・新聞）</p>